

## ～障がい特性ごとの合理的配慮事例～

障がいのある方と接する際には、それぞれの障がい特性に応じた対応が求められます。

以下には、代表的な障がい特性と対応例を簡単にまとめています。これらは過重な負担がないことを前提に例示しています。合理的な配慮を行う際には、障がい者の性別、年齢及び障がいの状態に応じて、柔軟に対応する必要があります。

また、このほか、障がい児については、成人の障がいのある方とは異なる支援の必要性もあります。

### ◇共通

- 障がいの種類や程度は様々です。障がいの種類や程度が同じでも、障がいの現れ方は一律ではありませんので、その方の障がいの状態に応じた対応を行いましょう。
- 外見からは、障がいがあることがわからない方がいます。周囲が気づいていないことで、障がいのある方のストレスが大きくなることを知り、理解と配慮をしましょう。
- 障がいのある本人に話しかけましょう。支援者等と一緒にあっても、本人の意思を尊重することを心がけましょう。障がいのある方が成人の場合は、相手の年齢に応じた言葉を使いましょう。

### ◇身体障害者補助犬について

#### 考 え 方

○ 盲導犬、介助犬、聴導犬の3種類があります。公共施設、公共交通機関、ホテル、飲食店、病院等では、やむを得ない場合を除き、補助犬の同伴を拒むことは、できません。

#### ・盲導犬

視覚障がい者の歩行誘導をするための訓練を受けています。ハーネス(胴輪)をつけています。

#### ・介助犬

肢体不自由者の日常訓練を介助するよう訓練されています。起立・歩行・着脱衣の介助や指示した物をもって来たりします。

#### ・聴導犬

聴覚障がい者に、生活の中で必要な音を知らせるよう訓練されています。車のクラクションなどを聴き分けて教えます。

◇肢体不自由

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 病気等による筋力低下や関節損傷などで歩行が困難な場合は、車椅子を使用していることがあります。</li> <li>○ 車椅子を使用している方にとっては、段差や坂道が移動の大きな妨げになります。</li> <li>○ 長距離の歩行が困難であったり、階段、段差、エスカレーターや人ごみでの移動が困難な場合があります。</li> <li>○ ベッドへの移乗、着替え、洗面、トイレ、入浴など、日常の様々な場面で援助が必要な方もいます。</li> <li>○ 話すことが困難で、自分の意思を伝えるににくい方もいます。</li> <li>○ 杖や装具歩行が可能な場合や、切断者などで義足を使用して歩行可能な場合は、日常生活動作は自立している方が多いです。</li> </ul>
主 な 対 応 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不随意運動等により書類を抑えることが難しい障がいがある方に対して、資料を押さえて、見やすいように補助します。</li> <li>○ 高いところなどにある資料を取って渡したり、資料等をとりやすい場所に配置したりします。</li> <li>○ エレベーターで同乗した場合は、エレベーターの中のスイッチなどの機器操作の配慮をします。</li> <li>○ 必要に応じて代筆に応じます。</li> <li>○ 窓口などに杖おきの設置をします。</li> <li>○ 歩行が困難な方のそばを通り過ぎる場合は、ゆっくり歩きます。</li> <li>○ 面談にあたっては、移動距離をできるだけ少なくし、移動しやすい場所で実施します。</li> <li>○ 車椅子を利用している方に意向を確認した上で、移動時の介助を行います。（勝手に車椅子を押したりすることは止めましょう。）</li> <li>○ 車椅子を動かす場合は、急に押したり、押す手を急に離さないようにし、「動かします」などと声をかけ、方向転換する際にも「右に曲がります」などと声をかけます。</li> <li>○ 車椅子を動かす場合は、周囲に障害物がないかどうかを確認し、傾斜がある場合には加速がかかることがあるので、特に注意します。</li> <li>○ 車椅子を利用している方と話す場合は、目線があう高さで会話をします。</li> <li>○ 脊髄損傷者は体温調整障がいを伴うことがあるため、部屋の温度管理に配慮をします。</li> </ul>

◇視覚障がい(視力障がい・視野障がい・色覚障がい・光覚障がい)

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視力や視野の障がいの状況によって、明るさの変化への対応が困難なため、移動などに困難さを生じる場合も多いです。</li> <li>○ 先天性障がいのある方のほか、最近は糖尿病性網膜症や緑内障などの病気によって視覚障がいのある方も多くいます。</li> <li>○ 視力をほとんど活用できない方の場合は、音声、触覚、嗅覚など、視覚以外の情報を手がかりに周囲の状況を把握しています。</li> <li>○ 視力をある程度活用できる方の場合は、補助具を使用したり文字を拡大したり近づいて見るなどの様々な工夫をして情報を得ています。</li> </ul>
主 な 対 応 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 普段から通路や点字ブロックの上などに、通行の妨げになるものを置かないようにします。</li> <li>○ 困っていても、自ら介助等を求めることが困難なことがありますので、困っている方を見かけたら、まず、声をかけます。声をかける時には、前から近づき「○○さん、こんにちは。△△です。」など自ら名乗ります。</li> <li>○ 単独での歩行や移動に困難なことがあります。必要書類の取得のためなどで役所内の違う課に案内する場合は、必要に応じて、移動介助を行うようにします。</li> <li>○ 移動を介助する際には、意向を確認して、その方との身長の高さを考えひじや肩などを軽くつかんでもらい、誘導する側が半歩先に立って歩きます。階段などの段差がある場合は、「二歩歩くと階段があります。」などと声をかけます。</li> <li>○ 説明する際には、指示語「それ」「このくらい」などの指示語を使わず「あなたの正面」、「熱い湯のみが右手の3時方向に置いてあります」など具体的に分かりやすく話します。</li> <li>○ 見えにくさに応じて、聞くことで内容が理解できるように説明したり、拡大コピーまたは点字を用いた資料などの提供をします。</li> <li>○ 窓口で対応中、一時的に席を離れる際や新たに職員が加わるような場合には、その旨を伝えます。</li> <li>○ 代筆した場合には、代筆後にその内容を読み上げて、誤りがないか確認してもらいます。</li> <li>○ 必要に応じて資料等の読み上げを行う際にはまず、目次や全体構成を説明してから、必要な箇所や希望箇所を読みます。その際は、要点をまとめるのではなく、原文をそのまま読み上げます。</li> <li>○ 会議資料を作成する場合で絵や図を使用する際には、読み取りソフトでも対応できるよう文字でも記載するようにします。</li> </ul>

◇聴覚障がい

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聴覚障がいは、外見上わかりにくい障がいであり、その方が抱えている困難も他の方からは気づかれにくい側面があります。</li> <li>○ 補聴器や人工内耳を装用するほか、コミュニケーション方法には手話、筆談、口話など様々な方法がありますが、どれか一つで十分ということではなく、話す相手や場面によって複数の手段を組み合わせるなど使い分けています。</li> <li>○ 補聴器や人工内耳を装用している場合、スピーカーを通じるなど、残響や反響のある音は、聞き取りに効果が得られにくい場合もあります。</li> <li>○ 手話を使う方もいますが、聴覚に障がいのある方すべてが、手話ができるわけではありません(手話は第一言語)。</li> <li>○ 補聴器を使用しても、騒音があつたり、距離があつたりすることで呼び出し等に気付かないなど、日常生活での生活のしづらさがあります。車のクラクションなどに気づかず、危険な状態に陥ることがあります。</li> </ul>
主 な 対 応 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手話や文字表示、手話通訳や要約筆記者の配置など、目で見えてわかる情報を提示したりコミュニケーションを工夫します。</li> <li>○ コミュニケーション方法の例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手話(手の動きや顔の表情、体、目の動きなどで意思を伝える言語)</li> <li>・筆談(メモ用紙等に互いに文字を書いて意思を伝えあう方法)</li> <li>・要約筆記(話し手が話している内容や会議の進行、講演の内容などを要約し文字にして伝える筆記通訳)</li> <li>・口話(相手の口の形(動き)で、言葉を読み取る方法)</li> </ul> </li> <li>○ 分りやすい話し方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の顔を見ながら話します。</li> <li>・マスクをしているときは、マスクを外します。</li> <li>・補聴器をしている場合などは、音声が大きすぎるとかえって声が割れて聞き取りにくいので、音声は普通の大きさと話します。</li> <li>・複数の人で、一度に話しかけることはやめます。</li> <li>・文節で区切ります。(例：申請書に /お名前と /住所を /書いてください。)</li> </ul> </li> <li>○ 筆談の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長文は前後の関係が複雑になり理解しにくいいため、短い文で文意を明確にします。</li> <li>・かな文字は言葉の切れ目や意味の把握が難しいため、日常使う漢字を使用します。</li> </ul> </li> <li>○ 呼び出しの音声聞こえない方には、どのような方法で知らせるのか、あらかじめ確認して、不安のないようにします。</li> </ul>

○ 窓口に常に筆談できる小さめのホワイトボードを用意しておきます。

◇盲ろう(視覚と聴覚の重複障がい)

主 な 特 性
<p>○ 盲ろう者とは、視覚と聴覚の両方に障がいのある方です。単なる重複障がいではなく、「盲ろう」という固有の障がいとして捉えています。見え方や聞こえ方は、個人によって異なり、障がい程度によって、次の4つに大別されています。</p> <p><b>【全盲ろう】</b>まったく見えなくて、まったく聞こえない方  <b>【全盲難聴】</b>まったく見えなくて、少し聞こえる方  <b>【弱視ろう】</b>少し見えて、まったく聞こえない方  <b>【弱視難聴】</b>少し見えて、少し聞こえる方</p> <p>共通しているのは、外部からの情報を得ることが困難ということです。会話だけでなく、周囲の状況を知るための音・視覚情報も十分には得られず、一人での外出も困難です。</p>
主 な 対 応 例
<p>○ 障がいの状態や程度に応じ視覚障がいや聴覚障がいの方と同じ対応が可能な場合がありますが、個人によって大きく異なるため、本人と対応者にあったコミュニケーション手段を探ることが必要になります。</p> <p>○ 触覚を用いたコミュニケーション、触手話(手話の形をお互いの手で触って確認することで情報を伝えます)、指点字(盲ろう者の指を点字タイプライターのキーにみたてて直接指をたたきます。)、手書き文字(盲ろう者の手のひらに文字を書いて伝えます。)などの対応手段があります。また、合図、うなずきを伝える時などで身振りやサインを使用することもあります。</p> <p>○ 聴力が残っている場合は、音声による方法(耳元で話す、マイクを使用するなど)を用います。その際、補聴器や人工内耳を使用している場合もありますので、声の音量に気を付けてください。</p> <p>○ 視力が残っている場合は、筆談やパソコンを使うことが可能なことがあります。</p> <p>○ 言葉の通訳に加えて、視覚的・聴覚的情報についても意識的に伝えます。</p> <p>○ 盲ろう者が会議等に出席する際には、必要に応じて、それぞれに盲ろう者向け通訳・介助員を配置します。</p>

◇言語障がい

主 な 特 性	
<p>○ 言語障がいとは、言葉の理解や適切な表現が困難な状態(言語機能障がい)と発声が困難な状態(音声機能障がい)があります。</p> <p>○ 先天的な聴覚障がいのために発話習得が不十分な場合や、脳血管障がい等による失語症等、様々なケースがあります。外見からは分かりにくく、周囲の理解が得づらいことがあります。</p> <p>○ 発声機能を喪失した方の中には、食道発声法や電動式人工咽頭等を使用して会話をする方もいます。</p> <p>○ 失語症の方は一見、話をしていても言い間違いや聞き間違いをすることがあり、また複雑な内容や長い文章は理解することが難しいことがあります。</p> <p>○ 失語症の方は以下の特徴があります。</p>	
聞くことの障がい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音は聞こえるが「ことば」の理解に障がいがあり「話」の内容がわからない。</li> <li>・単語や簡単な文なら分かる人でも早口や長い話になると分からなくなる。</li> </ul>
話すことの障がい	伝えたいことをうまく言葉や文章にできない。
読むことの障がい	文字を読んでも理解が難しい。
書くことの障がい	書き間違いが多い。文章を書くことが難しい。
主 な 対 応 例	
<p>○ 聞きとれないときや分からないときは、きちんと聞き返すことが必要です。</p> <p>○ ゆっくり、はっきり、短い言葉で話します。</p> <p>○ 筆談が行えるよう、メモ用紙や書くものを用意します。</p> <p>○ 筆談ではなく会話しているときでも、聞き取りにくいときは、文字や図で書いて内容を確認します。</p> <p>○ 話し言葉以外の手段(カレンダー、地図、時計など)を使うと分かりやすいです。</p>	

◇高次脳機能障がい

交通事故や脳血管障害などの病気により、脳にダメージを受けることで生じる認知や行動に生じる障がいです。身体的には障がいが残らないことも多く、外見ではわかりにくいため「見えない障がい」とも言われています。

主な特性
<p><b>【記憶障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・すぐに忘れてしまったり、新しい出来事を覚えることが苦手なため、何度も同じことを繰り返したり質問したりします。</li></ul> <p><b>【注意障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・集中力が続かなかつたり、ぼんやりしてしまい、何かをするとミスが多く見られます。</li><li>・二つのことを同時にしようとすると混乱します。</li><li>・主に左側で、食べ物を残したり、障がい物に気が付かないことがあります。</li></ul> <p><b>【遂行機能障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分で計画を立てて物事を実行したり、効率よく順序立てられません。</li></ul> <p><b>【社会的行動障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ささいなことでイライラし、興奮しやすいです。</li><li>・こだわりが強く表れたり、欲しいものを我慢できません。</li><li>・思い通りにならないと大声を出したり、時に暴力をふるったりします。</li></ul> <p><b>【病識欠如】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・上のような症状があることに気づかず、できるつもりで行動してトラブルになります。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 失語症を伴う場合があります。</li><li>○ 片麻痺や運動失調等の運動障がいや眼や耳の損傷による感覚障がいを持つ場合があります。</li></ul>
主な対応例
<p><b>【記憶障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分でメモを取ってもらい、双方で確認します。</li></ul> <p><b>【注意障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・混乱しないように、ひとつずつ順番にやります。</li></ul> <p><b>【遂行機能障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・手順書を利用したり、チェックリストで確認します。</li></ul> <p><b>【社会的行動障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・感情をコントロールできない状態にあるときは、上手に話題や場所を変えてクールダウンを図ります。</li></ul>



◇内部障がい

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体の内部(心臓機能、呼吸器機能、腎臓機能、膀胱・直腸機能、小腸機能、肝臓機能、免疫機能)のいずれかに障がいのある状態をいいます。</li> <li>○ 障がいがあることが体の内部にあることから、外見から分かりにくく、周囲からの理解が得づらいため、バスなどの優先席に座りにくいなど、心理的なストレスを受けやすい状況にあります。</li> <li>○ 障がいのある臓器だけではなく、全身状態が低下しているため、体力が低下しやすい、疲れやすいことが多いです。</li> <li>○ 常に医療的対応を必要とすることが多いです。</li> </ul>
主 な 対 応 例
<p><b>【心臓】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペースメーカーは外部からの電気や磁力に影響をうけることがあるので、注意すべき機器や場所などの知識をもちます。</li> </ul> <p><b>【膀胱・直腸】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 排泄に関し、人工肛門の場合、パウチ洗浄等特殊な設備が必要となることを理解します。</li> </ul> <p><b>【呼吸器】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 呼吸器機能障がいのある方は、慢性的な呼吸困難、息切れ等の症状があることを理解し、息苦しくならないよう楽な姿勢でゆっくり話をしてもらおうよう配慮します。</li> <li>○ 見た目では障がいがない場合でも、体調がすぐれない方に対して、可能な限り移動を少なくするなどの配慮をします。</li> <li>○ 身体的な負担を考慮して、面談時間を調整するなどの対応が必要です。</li> <li>○ 特別な配慮は必要ない方もいらっしゃいますが、他人に知られたくないような病名など、プライバシーには充分注意して、対応するような配慮が必要です。</li> </ul>

◇知的障がい

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活や学習面で現れる知的な働きや発達が、同年齢の方の平均と比べてゆっくりしていることをいいます。</li> <li>○ 外見からは分りにくく、周囲の理解を得づらいことがあります。</li> <li>○ 知的能力や障がいの程度には、個人差があります。</li> <li>○ 計算能力や芸術などで極めて優れた才能を発揮する方もいます。</li> <li>○ 複雑な話や抽象的な概念を理解しにくい場合があります。</li> <li>○ 金銭管理、会話、買い物、家事などの社会生活への適応に、状態に応じた援助が必要な場合があります。</li> <li>○ 人に尋ねることや言葉で自分の気持ちや意見を伝えることが苦手な方もいます。</li> <li>○ 未経験の出来事や急な状況変化への対応が苦手な方もいます。</li> <li>○ こだわりがある方が多く、こだわりがとても強い方もいます。</li> <li>○ 染色体の数が異なることで発症するダウン症候群は、筋肉の低緊張や心臓に疾患を伴う場合があります。</li> <li>○ てんかんを合併する場合があります。</li> </ul>
主 な 対 応 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 優しく信頼している態度で、穏やかな口調で話しかけます。</li> <li>○ 成人には、子ども扱いせず、相手の年齢に応じた言葉を使います。</li> <li>○ 支援者や同行している方ではなく、本人に、用件や意思を確認します。</li> <li>○ 言葉による説明などを理解しにくいいため、ゆっくりと短い言葉や文章で、わかりやすく話します。</li> <li>○ 文書は、漢字を少なくしてルビを振ったり、わかりやすい表現にします。</li> <li>○ 写真、絵、ピクトグラムなどわかりやすい情報提供を工夫します。</li> <li>○ 依頼することは、順番に1つずつ行います。</li> <li>○ 大事なことは、メモに書いて渡します。</li> <li>○ 相手がきちんと理解をしているか、時間がかかっても確認しつつ話を進めます。</li> <li>○ 本人をよく知る支援者の同席など、本人が理解しやすくなる環境を工夫します。</li> <li>○ 「一つのことにこだわる」行動をすることがあるので、その場合は、思い込みで判断しないで、まずは、見守ります。</li> </ul>

◇精神障がい

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 統合失調症やうつ病などの精神疾患のために、日常生活や社会生活がしづらくなることがあります。</li> <li>○ 外見からは障がいがあるとは分りにくく、周囲の理解を得づらいことがあります。</li> <li>○ 統合失調症は、発症の原因はよく分かっていませんが、100人に1人がかかる比較的一般的な病気です。幻覚や妄想が特徴的な症状ですが、その他にも様々な生活のしづらさが障がいとして表れることがあります。</li> <li>○ 統合失調症は、陽性症状として自分の悪口やうわさ、指図する声等が聞こえる幻覚や周囲のことが何でも自分に関係しているように思える関係妄想などがあり、陰性症状としては、意欲が低下し、以前からの趣味や楽しみにしていたことに興味を示さなくなる、入浴や着替えなど清潔を保つことが苦手となる、などがあります。              認知や行動の障がいがあることもあります。</li> <li>○ 気分障がいは、気分の波が主な症状としてあらわれる病気です。うつ状態のみを認める時はうつ病と呼び、うつ状態と躁状態を繰り返す場合には、双極性障がい(躁うつ病)と呼びます。</li> <li>○ ストレスに弱い方や対人関係、コミュニケーションが苦手な方が多いです。</li> <li>○ 周囲の言動を被害的に受け止め、恐怖感を持ってしまう方もいます。</li> <li>○ 声の大きさの調節が適切にできない場合もあります。</li> <li>○ 同じ質問を繰り返したり、つじつまの合わないことを一方的に話したりする方もいます。</li> <li>○ 病気のことを他人に知られたくないと思っている方も多いです。</li> </ul>
主 な 対 応 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 精神疾患は、誰もがかかる可能性のある病気であることを理解します。</li> <li>○ 障がいの特性もさまざまであるため、必要に応じて医療機関と連携を図ったり、専門家の意見を聴くなど、関係機関と協力しながら対応をします。</li> <li>○ 不安を感じさせないよう、穏やかな口調で話します。</li> <li>○ 会議や面談等では、疲労や緊張などに配慮し、別室や休憩スペースを設けるなどの対応をします。</li> <li>○ 病気について正しい知識を学びます。</li> <li>○ 一度に多くの情報が入ると混乱するので、伝える情報は紙に書くなどして整理して、ゆっくり具体的に伝えることを心掛けます。</li> <li>○ ストレスや環境の変化に弱いことを理解し、配慮した対応を心掛けます。</li> <li>○ 無理な励ましは、本人の過剰なストレスになることがあります。本人のペースに合わせて、ゆっくり対応することが大切です。</li> <li>○ 相談された場合には、じっくり相手の話を聞くことを心がけます。</li> </ul>

◇発達障がい

脳の機能障がいによって生じるもので、知的な遅れがある場合もあれば、エジソンやアインシュタインのように平均以上の能力がある場合もあります。

脳機能の発達のアンバランスさから、得意・不得意の差が大きいため、周囲の理解を得づらいことがあります。

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 遠回しな言い方やあいまいな表現は理解しにくいです。</li> <li>○ 相手の表情、態度やその場の雰囲気を読み取ることが苦手な方もいます。</li> <li>○ 順序だてて論理的に話すことが苦手な方もいます。</li> <li>○ 関心のあることばかり一方的に話す方もいます。</li> </ul> <p><b>【自閉症、広汎性発達障がい(自閉症スペクトラム)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の表情や態度などよりも、文字や図形、物の方に関心が強い傾向があります。</li> <li>・大勢の人がいる所や気温の変化などの感覚刺激への敏感さで苦労していますが、それが芸術的な才能につながることもあります。</li> </ul> <p><b>【学習障がい(LD)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す」「理解」は普通にできるのに、「読む」「書く」「計算する」ことが、努力しているのに極端に苦手です。</li> </ul> <p><b>【注意欠陥多動性障がい(注意欠如・多動性障がい)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次々と周囲のものに関心を持ち、周囲のペースよりもエネルギッシュに様々なことに取り組むことが多いです。</li> </ul> <p><b>【その他の発達障がい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チック障がいでは、体の動かし方の不器用さ、我慢していても声が出たり体が動いてしまったりします。</li> </ul>
主 な 対 応 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本人をよく知る専門家や家族にサポートのコツを聞きます。</li> <li>○ 疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設けます。</li> <li>○ 話し言葉に苦手さがある場合は、急かさずに丁寧に話を聞きます。</li> </ul> <p><b>【自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障がい(自閉症スペクトラム)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「○○をしましょう」とシンプルに言うなど、伝え方の工夫をします。</li> <li>・感覚過敏がある場合は、音、肌触り、室温など感覚面の調整を行います(大声で説明せずホワイトボードで内容を伝える、など)。</li> </ul> <p><b>【学習障がい(限局性学習障がい)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を大きくしたり行間を空けるなど、読みやすくなるように工夫します。</li> <li>・物や絵、文字などを見せながら、短いことばや文章で話します。</li> </ul> <p><b>【注意欠陥多動性障がい(注意欠如・多動性障がい)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短く、はっきりとした言い方で伝えます。</li> </ul>

## ◇難病

主 な 特 性
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 難病は、発症の原因が明らかでなく、治療方法が確立されていない希少な疾病であり、長期にわたり療養を必要とするものをいい、その種類は多岐にわたります。</li><li>○ 血液系疾病、免疫系疾病、内分泌系疾病、代謝系疾病、消化器系疾病、呼吸器系疾病、神経筋疾病、骨関節疾病、感覚器疾病など様々な疾病により多彩な障がいを生じる方がいます。</li><li>○ 一見して難病とわかる方もいれば、分りにくい方もいます。外見上、病気であることがわかりにくく、健康な人と同じように生活している難病の方もいます。</li><li>○ 症状には頻繁に変化がみられます。日によって変化が大きいといった特徴や進行性の症状、大きな周期での回復と悪化を繰り返すことがあります。</li><li>○ 痛みや脱力感、倦怠感など外見上分りにくい症状に悩まされていることが多いです。</li><li>○ 難病のある方は、多くの場合、障害者認定の基準に含まれない機能障がいがあり、病気による疲れやすさや痛みに応じた症状がみられます。</li><li>○ 言語障がいや四肢麻痺などによって、会話や意思伝達に困難な場合があります。</li><li>○ 常に医療的対応を必要とすることが多いです。</li><li>○ 病態や障がいが進行する場合があります。</li><li>○ 難病は、一般生活をする上では、うつる種類の疾病ではありません。</li></ul>
主 な 対 応 例
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 外見から分りにくく、周囲からの理解が得づらいことを知り、理解と配慮をしていく必要があります。</li><li>○ それぞれの難病で特性が異なり、その特性に合わせて対応することが必要です。 例えば、言語障がいや四肢麻痺などの症状のために、会話や意思伝達が困難な場合があります。症状にあわせた、コミュニケーションを取る必要があります。</li><li>○ 疲れやすさ、状態の変動などに留意します。</li><li>○ 疲れやすいなどの症状がでることがあるので、体調がすぐれない時に休憩できる場所を確保する必要があります。</li></ul>